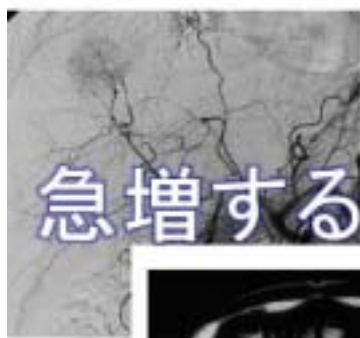


高知大学は南四国や近縁の黒潮流域圏が有する様々な地域資源の利活用を図り、地域課題の解決に向け、総合大学の特性を活かした多様な学術研究を学系プロジェクト研究にて遂行することになりました。高知県は全国に名だたる飲酒県であり、肝細胞癌の発生率が高いことで有名です。そこで消化器内科ではハードルの高い野心的な試みに挑戦することになりました。生活習慣病を見出すための特定健診調査成績を用いて、「日常生活に潜むリスク」の軽減を行い、2015年までに高知県における肝細胞癌の発生総数を増加から減少へと転換しようというプロジェクトです。

国民の14%が罹患するNASH・NAFLDと呼ばれる肝硬変や肝細胞癌の発生母地は、糖尿病・高血圧・脂質異常症といった既成の疾患概念では分類しきれなかった肝臓の悲鳴です。特定健診でこの悲鳴を聞き分け、安価な方法で早期発見と治療を行うには臨床家の感性を磨く必要があります。資源が限られた地域でも、工夫により急増する肝癌総数を抑制することは可能です。これを証明する「肝癌抑止と生活習慣研究班」。この事業の遂行には、高知県、高知市、および高知県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会との連携が必須です。

そこで地域連携の軸として、「肝癌抑止と生活習慣研究班」を立案し、高知大学医学部先端医療学推進センターに設立申請致しました。生活習慣病に感心を持つ臨床家・研究者の叡智を結集し、高知大学から国際水準の専門性の高い研究成果の発信することにより、日本国民すべてが等しく享受し得る「がん・生活習慣病」対策、「健康長寿」対策の策定に貢献できれば幸いです。

## 肝癌抑止と生活習慣研究班



急増する肝癌

日常生活に潜むリスク

検診による発癌抑止

(高知大学の提言)



西原利治教授 (消化器内科学)